

## アメリカ無償幼稚園運動とペスタロッチ・フレーベル・ハウス

橋川 喜美代

(キーワード：無償幼稚園運動，世界コロンブス博覧会，国際幼稚園連盟，ペスタロッチ・フレーベル・ハウス)

### はじめに

アメリカにおける1870年代からのフレーベル主義幼稚園の発展は，貧困・犯罪・衛生といった都市問題と対して語られてきた。いわゆる移民の流入に伴う大都市の貧児の救済事業として，幼稚園は万能薬のごとく宣伝され，各地に発展していく。そして，幼稚園は公教育体系に編入され，小学校への効率的な準備教育を目指す公立幼稚園と，各地の博愛家たちによって支援された無償幼稚園という2つの流れに分かれる。無償幼稚園は，スラムの子どもが欠如しているしつけや，秩序ある行動を教えることによって，将来の善良な市民の育成を目指すのみならず，人類の道徳性の再生に向け，親を巻き込み，家庭は言うに及ばず，社会改良の手段として期待されたのである。

こうした無償幼稚園への期待を膨らませたのが，1893年にシカゴで開催された世界コロンブス博覧会(World's Columbian Exposition in Chicago, 以下シカゴ博と略す)である。博覧会では，全米を代表する幼稚園の公開・実演に加え，海外を代表する幼稚園が数多く紹介された。1880年代から，都市のスラム街に流入する移民や貧民の子どもを墮落と犯罪から切り離す解毒剤として関心が強まった幼稚園は，この博覧会を契機にその存在意義を一般大衆に強く印象づけた<sup>1)</sup>。シカゴ博覧会において注目されたのは，フレーベル(Froebel, F. W.)の姪娘，シュラーダー(Schrader-Breymann, H.)が指導するペスタロッチ・フレーベル・ハウス(Pestalozzi-Fröbel-Haus)の展示である。ハウスの展示を監督していたドイツ人幼稚園教師シェーペル(Schepel-Hamminck, A.)は，貧児の救済を目指すドイツ人移民の幼稚園教師ホーファー(Hofer, A.)に強い影響を及ぼし，シカゴ幼稚園協会(Chicago Kindergarten Institute)の結成を実現させた。シカゴ幼稚園協会は1894年，フレーベルのカイルハウ教育舎を模し，学生宿舎ゲルトルート・ハウス(Gertrude House)を開設。ゲルトルート・ハウスでは，他者と共感し学び合う共同生活を通して，愛と奉仕に裏打ちされた幼稚園教師の育成を模索し始める<sup>2)</sup>。

1893年1月号の『ペスタロッチ・フレーベル・ハウス協会新聞』は，シカゴ博開催年を迎えたアメリカ幼稚園運動への強い関心を読者に訴えている。特に，国際幼稚園連盟(International Kindergarten Union, 以下IKUと略す)の設立がアメリカ人の奮闘記事として報じられた。IKUの通信幹事，ヘイブン(Haven, C. T.)がシュラーダーに宛てた1892年10月2日付けの手紙は，幼稚園を基礎とした完全な学校体系を確立するには，幼稚園教育を専門にするIKUを設立し，幼稚園と初等学校相互の活動を関連づけていく必要があると説いている<sup>3)</sup>。ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの指導者たちがIKUからの手紙に強い関心を示したことによって，「1890年まで，アメリカにおいて最も影響力を持ったドイツ人幼稚園理論家は，保守的なフレーベル主義者，マーレンフォルツ・ビューロー夫人(Marenholtz-Bülow, B.)であった。しかし1890年以降，アメリカの幼稚園教師の興味はもう1人のドイツ幼稚園創始者であり，フレーベルの姪娘，シュラーダーへと移行<sup>4)</sup>し始めたのである。

シュラーダーの元で17年間研究を重ね，ロンドンのセサミ・ハウスで，ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの教育を継承・発展させる運動を繰り広げていたシェーペルは，ホーファーが編集していた『幼稚園雑誌』(Kindergarten Magazine)の取材に応じて，「小さな起源から起こり，多くの妨害に遭いながらも成長し続けた事業は，今では本土の社会的かつ教育的進歩に永久的に重要な役割を果たしていることが認められるまでになった。各国の人々がこの『教育的本拠地』の教育学—設立において目指されてきたペスタロッチとフレーベルの教育学—を調査し，獲得するためにベルリンに集まってきている。」とハウスの発展を説明するとともに，ハウスの目的が「十分な家庭環境を保障し，子どもに真に為すことに依る発達への恵まれた機会」を与えて人の徳を高めることにあると強調した<sup>5)</sup>。

ところで，シェーペルはニューヨーク経由の船旅からシカゴでの生活を克明にベルリンに向けて報告してい

る<sup>6)</sup>。船上では船酔いに悩まされ、やっとの思いでニューヨークに着き、船で知り合った夫人との心温まる散策を楽しんだのも束の間、ホテルまでの道に迷い、警官の親切な対応に感謝するものの、異国での不安と孤独感を味わっている。この不安感は、シカゴ博当日の5月1日9時45分到着を待ち受けるはずになっていた人物が姿を見せなかった時、ピークに達した。12時に展示場に入ることもできず、顔を洗う水もタオルも出てこない安ホテルのみすばらしい部屋で一夜を明かすことになった。シェーベルが味わった多難続きのアメリカ生活は、稿を改めることとし、本研究はブローらフレーベル主義者やヒルら進歩主義者とは異なる無償幼稚園運動家らが主張したペスタロッチ・フレーベル・ハウス受容に至る理論的かつ実践的流れを明らかにすることを目的とする。

## I. 幼稚園の受容と万国博覧会

アメリカ幼稚園運動に関する研究は、その多くがフレーベル主義幼稚園から進歩主義幼稚園への移行を19世紀末期から20世紀初頭の児童研究運動や「新教育」運動を取り上げて説明してきた。形式化したフレーベル主義教育を根底から問い直したのは、ケンタッキー州ルイスヴィルの進歩主義幼稚園教師ブライアン (Bryan, A. E.) と弟子ヒル (Hill, P. S.) である。ブライアンが、1890年の「全米教育協会」(National Education Association, 以下 NEA と略す) で行った、「文字は人を殺す」という歴史的演説に始まる恩物批判が、ブローらフレーベル主義幼稚園教師たちの誤った恩物崇拝を突き崩すきっかけとなった<sup>7)</sup>。幼稚園運動はこうしたブライアンやヒルらが、「デューイやキルバトリック、ソーンダイク等の理論に依拠しつつ、それらを積極的に反映させて幼稚園教育の理論と実践の改善」を求め、フレーベル主義を打破していく過程として描き出される。そして、凌駕されるべきフレーベル主義とは、「E・ピーボディ、ブロー、教師教育に携わったドイツ人教師によって固守された精神であり、態度であったが、実践レベルでは恩物を中心にした技術主義」であったと説明がなされてきた<sup>8)</sup>。

ここでは、進歩主義幼稚園運動以前の公立幼稚園と無償幼稚園の保育実践を比較しながら、無償幼稚園運動家がペスタロッチ・フレーベル・ハウスに求めた接点を明らかにする。

### 1. フレーベル主義者の2つの流れ

アメリカの幼稚園運動は1856年、ドイツ移民のシュルツ (Schurz, M.) がウイスコンシン州ウォータータウンに開設したドイツ語幼稚園に端を発している。これは、フレーベル直伝の幼稚園理論と実践に基づき、子どもたちにドイツ人としての国民性を伝えるための小さな園であった<sup>9)</sup>。1859年、ボストンで開催された集会において、シュルツと娘アガテはピーボディ (Peabody, E. P.) に出会った<sup>10)</sup>。アガテの子どもらしい育ちに共感したピーボディは、その旺盛な精力をもってフレーベルの教育哲学を学び、幼稚園運動に残りの人生を捧げる決心をした。1860年、アメリカ初の英語幼稚園を開設したり、ドイツ人幼稚園指導者を招聘して幼稚園教員養成校設立に乗り出すが、発展までの道のりは平坦ではなかった。難航する受容の道を切り開いたのが1876年、フィラデルフィアでアメリカ独立百年を記念して開催された万国博覧会であった。博覧会における幼稚園の公開保育が、幼稚園を大衆化させる契機となった。

全国組織を持たない幼稚園に関する宣伝を盛り上げるため、ピーボディはボストン・フレーベル協会 (Boston Froebel Society) を使って支援に乗り出した。ロンドン・フレーベル協会 (London Froebel Society) を模範として結成されたボストン・フレーベル協会の目的は、①私立幼稚園と養成校を設立して、フレーベルの理念を普及させること、②ピーボディが1873年に創刊した『幼稚園の使者』(Kindergarten Messenger) の出版を助成すること、③女性たちの研究グループや“親連合”(Parens Union) を結成し、幼稚園設立を促進すること、にあった<sup>11)</sup>。

ボストン・フレーベル協会の推薦を受けたバリット (Burritt, R.) は女性館別館において、地域の慈善協会の18人の孤児を対象に「百周年記念幼稚園」(Centennial Kindergarten) を開き、保育の実演を行った。この実演は大変な評判を呼び、見物席には楽しい合唱や愛らしい光景を一目見ようと人が群がり、質問のために数時間もその場を離れなかったという<sup>12)</sup>。大成功を取めたバリットとは対照的に、ブローによる「セントルイス幼稚園」は難解な手仕事に対する厳しい評価を受けた。視察に来ていたピーボディも、ブローの保育が観衆に悲しい印象を与えた事実に触れている<sup>13)</sup>。

こうした万国博覧会の様子からも、ピーボディが受容の道を切り開いたフレーベル主義幼稚園には既に異なる2つの流れが生じていた。1つは図1に示したコロンビア大学ティチャーズ・カレッジでのヒルとの一騎打ちで急速に衰えていくブローらセントルイス市の公立幼稚園を源としたフレーベル主義保守派の流れである。2つ目

は図2のドイツ人幼稚園指導者マーウェデルから生じてくるカリフォルニアの無償幼稚園運動の流れである。前者から見ておこう。

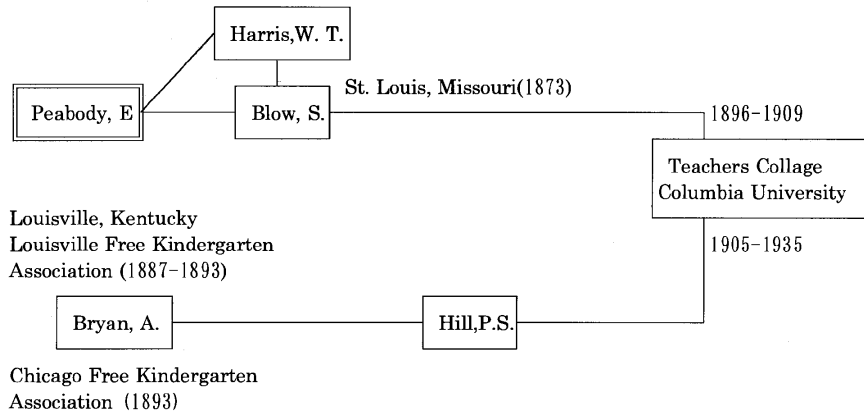


図1 幼稚園運動の系譜

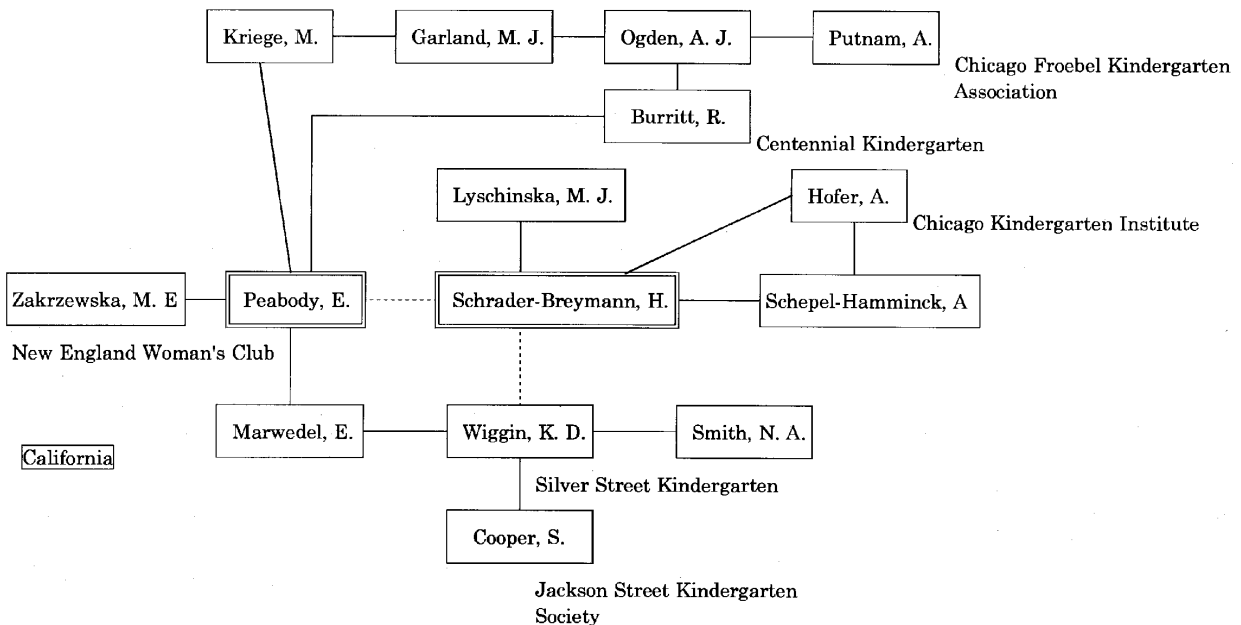


図2 ペスタロッチ・フレーベル・ハウス受容の源流

1873年、セントルイス市にアメリカ初の公立幼稚園が設立される。この開設に尽力したのは当時の教育長ハリス (Harris, W. T.) とブローの2人であった。ハリスにとって教育とは、制度の中で個人に「社会的全体」としての人間を自覚させていくことであり、家族、学校、市民社会、国家、教会という5つの制度が相互に補完し合って、教育的機能を果たすものと考えられた<sup>14)</sup>。ハリスはこうしたヘーゲル哲学の観点から、幼稚園の恩物・作業、遊戯・ゲームを次のように評価した<sup>15)</sup>。

「幼稚園は、それが恩物や作業を教えているとき、良く役立っている。というのもそれは手段と道具性の世界を取り扱い、子どもが自然を征服するのを助けるからである。幼稚園は遊戯・ゲームによって、より良く役立っている。というのも、それらはその特性において、徹底して人間的であり、子どもたちに生活の問題を解釈する上での、人類の経験的知見を象徴的な形で与えてくれるからである。」

子どもたちは、遊戯・ゲームにおいて、自らの社会的自我を意識し、自らを社会全体の一員と見るようになる。ハリスは子どもが自然の世界から人間の世界へ、物質的で世俗的な世界から霊の世界へ、遊戯・ゲームの集団内に次第に現れてくる高次で一般的な社会的自我を意識してくる点を評価したのである。そしてハリスは、「この意識が芽生えると、象徴的な精神的傾向は知的、道徳的活動というより高次な形式に道を譲り、子どもは小学校の教授を受け入れる準備態勢が整えられる」のだと主張した<sup>16)</sup>。

さらにハリスは、「非常に貧困な家庭では、子どもは街路で仲間との社会を構成し、犯罪へと導かれている。彼が入学するまでに、彼は学校の力では根絶できないような邪悪な習慣を身に付けてしまう」<sup>17)</sup>が、「もし不道德で節度を守れない子どもたちが3歳の時に幼稚園において教育されるなら、投獄される代わりに、社会にとって建設的な仕事を成し遂げる」可能性があるとして、恩物・作業、遊戯・ゲームの教育的意義を強調した<sup>18)</sup>。つまり、都市の貧児が、街路において悪徳や堕落を身に付けることから保護する手段として、幼稚園を位置づけたのである。

また、ハリスは自己活動を重視しながら、その過度な強調が自己本位を助長し、「気まぐれで好き嫌いの激しい独裁的な暴君を生み出しかねない」とロマン主義的な子ども観に警告を發し、優秀な教師による指導と制限を強く求めた<sup>19)</sup>。難解な手仕事への非難が万国博覧会で公開した保育に与えられたのも、厳格な恩物の教授系列に加え、大人の側からの一方的な期待が拡大され、子どもの社会的背景や発達を無視した一斉画一的指導に陥っていたからである<sup>20)</sup>。近隣の貧児に幼稚園を開放しようとしたセントルイス市の実験は、子どもをその生活圏から引き離し、極めて入念に練り上げられた人工的な空間たる幼稚園に囲い込み、日常的な世代的再生産過程から隔離する結果をもたらすことにもなった<sup>21)</sup>。

ブローは『象徴的教育』(*Symbolic Education: A Commentary on Froebel's "Mother Play"*)において、フレーベルが『母の歌と愛撫の歌』に込めた「生の合一」を象徴的に解釈する<sup>22)</sup>。同書の「塔の上の子どもたち」を用いたゲームを例に、社会的自我の意識化が目指される保育の実際を見ておこう<sup>23)</sup>。

あなたが遊んだ1つひとつを	つなぎ合わせて魅力的な全体にまとめてごらんさい。
一人で遊ぶのも楽しいが	仲間と一緒に遊ぶのはもっと嬉しいものです。
一輪の花を見るのも好きだが	さまざまな色の花輪を見るのはもっと好きです。
子どもはどんなに幼くとも	全体の一部であることをすぐに感じ取るのです。

子どもは円陣になって、身振り付きで詩を復誦する。社会的結合や共同生活の倫理的価値が言葉や行為として発表される中、子どもは社会的自我を意識化するよう期待される。しかし、この詩は「塔の上の子どもたち」に添えられた標語であり、本来、子どもの特性を洞察・認識すべき母親に向けて書かれたものである。つまり、これは「お互いに会ったその時は」という歌詞を合図に、互いに手の平を打ち合わせる「腕と全身の姿勢、上膊関節運動」をねらいとした遊びである。フレーベルは、母親が挿し絵や手の動きによって、神から見守られている感謝の気持ちを喚起し、子どもの内面的な生活を育めるように、先の標語を添えたのである。子どもがこれを復誦し、円陣を整える中で、社会的結合を教えようと書いたのではない。ブローの実践では、この点の認識が不十分である<sup>24)</sup>。

1881年1月から6ヶ月間、ブローのもとで研鑽を積んだハリソン(Harrison, E.)は、こうした形式的な教授法に陥る原因を次のように解釈している<sup>25)</sup>。

「フレーベルが『母の歌と愛撫の歌』に記した教えに傾倒するブローを理解する少数の者にとって、彼女は常に感動の源であった。しかし、学生の多くは基本的な原理を理解するのではなく、詳細に把握した外見上の仕事だけを教え、教育的環境の選択、経験、子どもたちの文化的背景を基礎づけている創造的な仕事に必要な柔軟性と自由に欠けていた。その結果、彼らの仕事は形式的で、創造性を欠くものとなった」と。

セントルイス市の公立幼稚園に見られる特徴は、遊戯・ゲームに込められた社会的結合や集団生活の倫理的価値観を円陣、身振り、難解な詩の復誦という形式をもって、余すことなく子どもに感じ取らせようとした点にある。こうした形式化は、やがて円陣に込められたシンボリズムを強調させ、ゲーム開始時に円陣をかたどった線の上に、子ども全員つま先がきちんと付くまで、十分間ただじっと待たせることを平然と行う園を出現させることになった。

## 2. 子どもの生活空間としての幼稚園

1880年の『アメリカ教育雑誌』に掲載されたペスタロッチ・フレーベル・ハウスの実践報告は、幼稚園を子どもの生活空間へと組み替え、家庭的な保育の実際を明らかにするものであった。実践報告が掲載される経緯は、マーレンフォルツ＝ビューロー夫人と親交の深かったピーボディが、夫人の痛烈な批判を浴びているシュラーダーの実践に興味を抱いたことによる。ピーボディは次のように語っている<sup>26)</sup>。

「マーレンフォルツ＝ビューロー夫人はフレーベルの姪、シュラーダーがフレーベルの教育方法を発展させず、

不当に歪めていると批判する。フレーベルはビューロー夫人を自らの主唱者と認め、姪を認めていなかったという事実もある。しかし、両者の正当性も否定できない。シュラーダーは自己の独特な立場を保持し、家事労働や高等クラスの実績によってベルリンに素晴らしい利益をもたらしている。彼女は自らを誤解し、弁明に耳を傾けようとしなないビューロー夫人に多大な尊敬を払っている。」

批判の正当性を検証するため、ピーボディは熟練した幼稚園教師、アルドリッヒ (Aldrich, A. R.) とロンバルド (Lombard, E.) の2人をベルリンに派遣した。1880年9月に掲載されたアルドリッヒの「シュラーダー夫人の幼稚園訪問記録」は、こうした理由に基づくものであった。特にここで注目されるのが、シュラーダーの実践を詳細に理解するため、ロンドン市の学務委員会の傘下にある幼児学校プロジェクトの監督官で、ブライマン家との親交が深かった、リチンスカ (Lyschinska, M. J.) の『幼稚園の原理』の第1章「ベルリンのドイツ幼稚園」を補足として付加している点である<sup>27)</sup>。

シュラーダーは、フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』の目的が母親に家事・育児の重要性を認識させることにあると捉えていた。シュラーダーが教師に本書を手がかりに学ばせようとしたのは、“子どもの特性、願望、必然性への深い洞察”であった<sup>28)</sup>。ペスタロッチが提唱した“居間”の教育力と、フレーベルの理念である子どもの自由な活動による発達とを結びつけ、外見では母親の仕事と変わらないように見える活動に、一筋の道理の糸を結ばせ、子どもの発達を目指す保育の流れを確立させようと考えていた。

具体的には、多人数からなる子どもたちを6～7人の小集団に分け、家庭的な小さな空間が与えられた。教師は膝元で丸くなって座った子どもたちに向かって、「今朝は誰がメアリーを園に連れて来てくれたの?」「誰がアニーにその素敵な白いエプロンをくれたの?」といった経験に基づいた質問から、家族への思いを想起させ、話したくなるよう促していく。さらに、子どもの家族への思いを高めるために、居間に一緒に座っている家族の絵や動物の親子の絵を見せた後、教師は同書の「指ゲーム」へと導く。そして、喚起された家族への思いは恩物を使った組み立てへと進み、家や居間、食事を作るためのオープンの製作が完成する。犬が園に迷い込んで来た時には、子どもたちの興味の中心が犬になり、犬小屋や水飲み用の桶等の製作が数日間続くことになる。

また、シュラーダーは幼稚園の教育目的として、子どもにつくりたい物を意識させ、つくり上げる能力と努力、さらにそれをつくれぬ人のためにつくってあげたいという感情の育成を掲げていたが、そのために同書の絵を次のように活用していた<sup>29)</sup>。

「教師は、本書の絵を子どもたちに見せるが、いかなる説明も加えない。子どもに、楽しい印象を与えることが目的だからである。その絵は『花のバスケット』で、内容は母親と子どもが父親を喜ばせようと、庭の花を摘んでいる絵が描かれている。子どもたちは、その絵を観察したり、受けた印象を述べるように励まされる。この後、本物のかわいい花が、子どもたちに配られ、家に花を持ち帰るためのバスケットづくりが開始される。」

ところで、「シュラーダー夫人の幼稚園訪問記録」、特にリチンスカの実践報告はウィギン (Wiggin, K. D.) に驚愕を持って受け取られた。彼女は1883年、リチンスカによるシュラーダーの実践報告が「余りにも自分の実践と似ているので、盗作ではないかと疑い驚いた」とピーボディに明らかにしている<sup>30)</sup>。ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの実践はピーボディだけでなく、ウィギンに衝撃をもたらしたのである。

スラムの保護者から“子どもの守護者”と呼ばれた無償幼稚園運動家、ウィギンは『母の歌と愛撫の歌』に込められた究極の原理が、母親に導かれともに遊ぶ中で子どもは世界を「予感的に」理解することにあると認識していた。子どもの感情に訴える方法を本書から学び取っていたウィギンは、本書の絵を大型にし、集団で楽しめる絵本として使用することによって、絵画中の意味ある細部を余すことなく子どもに観察させることを求めた。しかも、ウィギンは教師に対して、フレーベルが求めた遊戯の理想に準拠した、新作遊戯の開発を奨励したのである<sup>31)</sup>。

1896年、ウィギンは妹スミス (Smith, N.) との共著『フレーベルの恩物』において、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスにある砂場の魅力に触れながら、本国での設置を強調している<sup>32)</sup>。

「先進的人物であるシュラーダー女史のベルリンのペスタロッチ・フレーベル・ハウスには、樹木に覆われた魅力的な砂場が設置されていることを見学した幼稚園教師が熱狂的に語っている。アメリカには、そんな素敵な砂場がないばかりか、子どもたちが小さなシャベルで掘ったり、おもちゃのカートで持ち回したり、積んだり降ろしたりできる砂山が設置された場所、つまり彼らが“本物”の庭と言えるものがない。刑務所内の囚人には贅沢品だが、子どもたちの戸外の遊戯場に砂山を備えてはならない理由はないはずである。トラック一杯の砂はさほど高価でもないし、中庭に備え付ければ、それを囲んだり、散乱を防ぐ低い木のフェンスもいらぬ。数人の子どもたちが利用するだけなら、数年間はトラック一杯の砂で十分やっていけるはずである。もしその場所を覆う

便利な木がなくても、日よけがあればよい。鉄のスプーン、シャベル、1つか2つの手桶と皿、ケーキを焼くマフィン用リングやブリキのグラタン皿を備えておけば、私たちは小さな子どもたちをエデンの園に導き入れることができる。子どもたちは1時間程度、おとなしく楽しんでいるだろう。確かに、腕白な子どもたちなら、他の子の目や庭の周辺に砂を投げつけるかもしれない。しかし、こうした子どもたちの厄介な状況も他と比べれば、ずっと子どもの自由に任せられる。そして、子どもたちもどこか他よりも砂場の方がずっと満たされているので、喧嘩の発生も少ないだろう。」

ウィギンは、少量の砂が盛ってある単純な遊び空間を与えるなら、子どもたちを自由かつ創造的に遊びが展開できるエデンの園に導き入れられると強調している。こうした実感は1885年夏、ボストンに設置された砂場の成功を踏まえたものであったと考えられる。最も貧しいパーメンター街礼拝堂に設置された砂場は、ピーボディの影響を受けたザクルシェフスカ (Zakrzewska, M. E.) が旅行中、故郷ベルリンの公園で目の当たりにした砂遊びをしている子どもの様子をボストンの友人に書き送った手紙に端を発している。1890年代には、こうした砂場を含むモデル・プレイグラウンド (模範運動場) が各地に発展していく<sup>33)</sup>。

ザクルシェフスカは1867年の訪独直後から、積極的に幼稚園運動に乗り出したピーボディが講演に利用したニューイングランド女性クラブ (New England Woman's Club) の主要メンバーであった。1884年に結成されたマサチューセッツ州緊急対策及び衛生協会において、ザクルシェフスカは医者立場から、消防士や警官が、緊急時に的確な救急処置が取れるよう訓練・支援していた。ピーボディの影響を受けた彼女が、ベルリンの公園に設置された砂場に興味を抱き、都市化によって奪われた子どもの遊び場を求めて、その設置を協会に提言したのは当然の成り行きであったと言えよう<sup>34)</sup>。

## II. 国際幼稚園連盟の結成とシカゴ博

ケンタッキー州ルイスヴィルのジャーマン・アカデミーの校長ハイルマン (Hailman, W. N.) は1872年のNEAの年次大会において、公教育体系への幼稚園編入の価値を検証する委員会の設置を要請したが、なかなか受け入れられなかった<sup>35)</sup>。こうした幼稚園の評価を高めたのが、児童研究の2つの流れである。1つの流れはピーボディのお膝元であるボストンから起こった。ホール (Hall, G. S.) は1880年から、博愛家ショー (Shaw, P. A.) に支援された無償幼稚園において質問調査を実施し始めるが、これが児童研究運動へと発展していく。新たな教育改革の指針が、こうした質問紙調査など科学的な手続きで収集された大量データによる子どもの本性の自然主義的・発生心理学的把握を通して進められ、幼稚園や学校は貧児の社会適応と社会救済の制度と見なされるようになる<sup>36)</sup>。

もう1つの流れはフレーベル哲学の観点からもたらされた。ウィギンはピーボディの「幼稚園教師とは最も優れた女性、すなわち、技術的かつ知的な力や、道徳的品性の源泉において神と共に働いている者である。それゆえ、幼稚園教師となるために教育されることは、女子教育に与えられた最高の完結である」という言葉を強調しながら、子どもの自然な感覚や活動から意味深いものへと導いていく生の営みの場としての幼稚園に新しい意味を与え始める<sup>37)</sup>。フレーベルの観点から、母と子の根本的な問題が真剣に論議され、新しい思想の世界が多くの人々の前に開かれた。それは人生に新しい意味を与え、より大きな理想と崇高な目的へと女性たちを突き動かし、それが幼稚園協会叢生をもたらした<sup>38)</sup>。

ペスタロッチ・フレーベル・ハウスはこうした科学的な児童研究と女性達を突き動かした崇高な目的への盛り上がりの中で、受容の道が切り拓かれていく。国際幼稚園連盟会長、クーパーの無償幼稚園運動への取り組みから、この点を明らかにしておこう。

### 1. 幼稚園協会叢生の動き

1877年、ピーボディはフィラデルフィアの万国博覧会での公開保育や教材の宣伝がフレーベルの教育観、人間観、国家観から離れた思想や解釈を引き起こしている原因を研究不足に求め、アメリカ・フレーベル連盟 (American Froebel Union) を結成した。連盟はドイツ人幼稚園運動家、マーレンホルツ＝ビューロー夫人を名誉会長に任命し、幼稚園教員の資格基準を高め、幼稚園と幼児学校との違いを明確にしようとした<sup>39)</sup>。

表1は幼稚園関連の組織・団体の設立状況を示したものである。ピーボディやウィギンら関わった組織・団体に下線を付すと、これらがバンデウォーカーによって「協会時代」と呼ばれた1880年から90年代の幼稚園協会の叢生を牽引していることが明らかとなる<sup>40)</sup>。先にも触れたが、ボストン・フレーベル協会、ならびにアメリカ・

フレーベル連盟はピーボディが中心となって設立した組織である。また、サンフランシスコ公立幼稚園協会は1878年、ニューヨーク倫理文化協会の設立者アドラー（Adler, F.）の講演に刺激された博愛家たちによって結成され、その指導者はウィギンであった。そして、「ウィギンと妹ノーラ・スミスによって指導されて有名となったシルバー・ストリート幼稚園ほど広い名声を博し、子どもたちの間でも彼らの家庭においても成功を勝ち得た幼稚園はない。シルバー・ストリート幼稚園でなされた事業は、カリフォルニアにおけるその後のすべての事業の原動力であり、数多くの無償幼稚園や幼稚園協会の結成」に重要な影響を与えたと言われている<sup>41)</sup>。さらに、カリフォルニア幼稚園連盟は、マーウェデルが会長を務め、ウィギンは副会長であった。

表1 幼稚園関連の組織・団体の設立

1876年	ボストン・フレーベル協会
1877年	アメリカ・フレーベル連盟
1878年	サンフランシスコ公立幼稚園協会
1879年	ジャクソン・ストリート幼稚園協会 カリフォルニア幼稚園連合
1880年	シカゴ・フレーベル幼稚園協会 カリフォルニア・フレーベル協会
1881年	フィラデルフィア・サブプライマリー学校協会
1882年	デス・モイネス幼稚園協会
1884年	マサチューセッツ州緊急対策及び衛生協会 全米教育協会幼稚園部門の結成。アメリカ・フレーベル連盟の発展解消 ジャクソン・ストリート幼稚園協会がゴールデンゲート幼稚園協会となる。 インディアナポリス無償幼稚園児童保護協会 ミルウォーキー福音幼稚園協会 オレゴン州ポートアイランド幼稚園協会
1885年	ロサンゼルス幼稚園協会
1886年	ミネソタ州セントポール幼稚園協会 ロードアイランド州プロビデンス幼稚園協会 オハイオ州グリーンランド幼稚園協会
1887年	ケンタッキー州ルイスビル無償幼稚園協会
1888年	ニューヨーク州アルバーニー幼稚園協会 ルイジアナ州ニューオーリンズ幼稚園協会
1889年	ニューヨーク幼稚園協会 デトロイト保育学校・幼稚園協会 コロラド州デンバー幼稚園協会 ノースカロライナ州アッシュビル幼稚園協会
1890年	ミシガン州グランドラピッズ幼稚園協会 テネシー州チャタヌガ幼稚園協会
1891年	ニューヨーク州バッファロー幼稚園協会 ミネソタ州ミネアポリス幼稚園協会
1892年	国際幼稚園連盟 テキサス州ガルベストン幼稚園協会
1893年	サウスカロライナ州チャールストン幼稚園協会とピッツバーグ・アルゲニー幼稚園協会 ミズーリ州セントルイスのイザベルクロウ幼稚園協会 ワシントン州スポーケン幼稚園協会、ワシントン DC のコロンビア幼稚園協会 シカゴ無償幼稚園協会

Vandewalker, N. C., *The Kindergarten in American Education*, Macmillan Co., 1908, pp.56-58を参照し作成した。

さて、シルバー・ストリート幼稚園が影響をもたらした最初の協会が1879年、クーパー（Cooper, S.）によって設立されたジャクソン・ストリート幼稚園協会である。クーパーは「放任された子どもたちのために無償幼稚園を設立することによって、より優れた国民性の基礎を確立すること」に自らの伝道の道を見出し、自ら務めていた長老派教会に属するバイブル・クラスのメンバーと謀って協会を設立した。無償幼稚園の事業拡大とともに、ゴールデンゲート幼稚園協会が1884年に結成された<sup>42)</sup>。協会の発展は目覚ましく、園数18, 園児数1500名、保育者（園長や助手を含め）36名を越えるまでに成長した<sup>43)</sup>。

ところで、ウィギンの妹、スミスは幼稚園と教師の関係を庭と園丁の関係になぞらえ、「園丁は不思議な本質

が彼の蒔いたあらゆる種に存在し、正しい状況の下で発達することを知っているように、フレーベルはあらゆる子どもが完全な人間になる可能性を持っており、そうした可能性を発達させる状況を与えるのが教師の仕事であることを知っていた。」と強調する。こうした幼稚園教師が雇えないアメリカの小さな町や村の多くでは、熱心な母親が安価なスタイガー社出版のトラクトをテキストに用いて研究する小さなクラブを結成し、「フレーベルの『母の歌と愛撫の歌』、つまり“幼稚園の聖書”が主張する真理を心情ならびに生活の根源にできるまで」研究する必要性をスミスは訴えた<sup>44)</sup>。そして、それは聖パウロがIコリント13章7節で「大切なのは、植える者でも、水を注ぐものでもありません。成長させてくださる神なのです。」という真理に基づくことだと言う<sup>45)</sup>。

この真理とは何を意味するのだろうか。ウィギンらが指摘したフレーベルの次の言葉を参考に考えておこう。フレーベルは「それゆえ、愛する女性達。あなたがたの生涯の最大の問題と喜びは、あなたがたの神におけるが如く、子どもと一つであると感じることである。あなたの子どものものの中において一つとなり、外部の世界、人間界、自然界との積極的な関係において一つとなったと感じることである。殊に、神の子として育て上げられるために、諸物の源泉にして父なる神と一致する時においてこのように感じられるのである」という「生の合一」を強調している<sup>46)</sup>。これは女性の心情の内に眠る予感能力の重要性を説くものであり、すべての女性の心の中には、子どもを愛する感情が宿っており、この感覚こそが神、自然、そして人類との内的統一へと導くだけでなく、それら相互の統一へと導く。しかし、人類の幸福に携わる者としての使命の尊厳は、女性が神と一体となった明瞭さ、深さの中に到達した時にしか得ることができない。それを実現させたのがクーパーである。クーパーは朝、シルバー・ストリート幼稚園を訪問し、夜にはジャクソン・ストリート幼稚園の構想を描いていたと言う<sup>47)</sup>。シルバー・ストリート幼稚園の見学は、クーパーの中に眠っていた人類の幸福に携わる者としての神聖な職業意識が「神との合一」をもって与えられたのである。

フレーベルほど、女性が乳幼児期の教育に適していると強力かつ説得的に語った人物はいない。それはクーパーに与えられる崇高な職務を誰よりもはっきりと認識していたからである。それゆえ、ウィギンは「私たちがフレーベルの哲学を研究する時、フレーベルが奨励し、しばしば反復していたのは何だったのか。フレーベルの計画の中で重要と考えられた実物教授や恩物・作業に関する特別な指示ではない。こうした観点は、子ども自身の人格の涵養、外界、仲間、神との関係に関する彼の度重なる勧告に比べれば取るに足りないもの」だと述べ、女性たちの「生の合一」を求めたのである<sup>48)</sup>。

## 2. 国際幼稚園連盟の設立

国際幼稚園連盟の設立は1892年、ラサトガで開催されたNEA第32回年次大会において、全員一致で認められた。バンデウォーカーによれば、全米教育協会、南部教育協会(South Educational Association)に次ぐ第3の大きな教育組織であるIKU設立が認められた経緯は、次のようなものであった<sup>49)</sup>。

NEAの大会が開かれた際、フィラデルフィアのステュワート(Stewart, S. A.)が全米の幼稚園に関心をもった人々の団体を結成し、翌年のシカゴ博には幼稚園部門にふさわしい内容の展示ができるよう準備すべきであるという提案を行った。7月15日、この提案を討議するため、バプテスト教会にて集会が開催された。団体の結成は基本的に望ましいものと認められた。そして、この提案をさらに具体化するため、ステュワートを含む7人委員会が選出され、午後の討議に臨むことになった。委員会は全米幼稚園連盟(National Kindergarten Union)設立を提案するとともに、NEAの幼稚園部門とは対立するものではなく、協力しながら、より広く活動する存在であることを説明した。審議の後、名称はIKUに改められ、連盟の目的や役員が決定された<sup>50)</sup>。

会長にはサンフランシスコのクーパー、筆頭副会長にはステュアート、次席副会長にはボストンのピングリー(Pingree, L.)が選出された。連盟の目的には、①全世界の幼稚園運動に関する情報を蒐集しかつ普及させること、②幼稚園に関心のあるすべての人々を積極的に協力させること、③幼稚園の設立を促進すること、④幼稚園の教員養成基準を高めること、の4点が定められた。さらに、翌年に向けた特別な目的は、シカゴ博において世界の幼稚園の進歩をできるだけ完全に展示することであった<sup>51)</sup>。

国際幼稚園連盟の初代会長に選出されたクーパーは1893年、シカゴ博の女性館で開催された女性会議に際し、「人格を確立する場としての幼稚園」という題で挨拶を行った。まず、彼女は「高潔な人類を育てるには、より高潔な女性を育てる必要がある。より高潔な女性を育てるには、共感を発展させ、エネルギーを拡張し、目標を高めることが必要だ。」と、幼稚園の大きな理想と崇高な目的を述べた。そして、科学的な理論に立脚した子育て法がさまざまな手段を用いて提示されたシカゴ博は、女性の時代の到来であり、子どもの新しい時代の幕開けであると力強く宣言した<sup>52)</sup>。



クーパーは、幼稚園がサンフランシスコの暗黒街で盗みを常習化させていた貧児たちに与えている影響力を3歳児の事例を通して説明している<sup>53)</sup>。

「快活で少し金髪の3歳児ラッシーは、私たちの幼稚園の一員である。不思議な機械学見本市の中を歩き回っている時、彼女は女性保護司の手をきつく握っていた。それは小さな幼稚園児にとっては貴重な大会であった。この小さな興奮しやすい子は素晴らしいものが手にとって見られるという喜びで夢中であった。彼女がひよこの孵卵器の秘密を徹底的に調べていたまさにその時、突然、見本市開催中本職の代理を務めている警官の1人が通りがかった。彼は『小さな青い目』の警戒心を見逃さなかった。彼女は小さな指で指し示しながら、周りに響くような大声で、『見て、警官がいる！』と叫んだ。『ほら、彼は行ってしまったでしょ。彼は私たちを監視する必要はないの。だって、幼稚園に行くようになって、私たちは盗みなどしないのだから』と気持ちを高ぶらせながら付け加えた。」

彼女が育ったバーバリーコーストは、賭博や売春などで悪名高いサンフランシスコの暗黒街である。浪費家で不精な親から言いつけられ、彼女は何時も警官の目を警戒しながら、果物や野菜をかすめ取ってきた。そんな彼女が、警官はいつも自分たちを監視しているのだと考えても不思議ではない。では、クーパーはこうした常習癖のある子どもにどう対処せよと言うのだろうか<sup>54)</sup>。

「幼い子どもが悪に走る時、それは墮落よりも無知が原因である。歩き始めの頃、子どもは何度も躓いたり、転んだりしながらまっすぐ歩けるようになる。宗教心の発達もこれと同じである。子どもが家の階段で上るのを学ぶように、宗教心も道徳的躓きの階段を上ることではしか学べない。私たちは身体がその動きを体得し、的確に動けるまで辛抱強く待つように、宗教心の目覚めも辛抱強く待たねばならない。すべての教育は成長であって、創造ではない。そしてすべての成長には時間が必要である。私たちは誰一人として教えられた『行為の処し方』を持って生まれては来ないのだから。」と。

「幼児期のパラダイス」である幼稚園は、身体的空腹感や知的空腹感が満たされた時、子どもたちに真に魂の奥底から来る高尚な喜びを感じる取らせる場となりうる。幼い子どもが犯す誤った行動をすべて性分だと決めつけ、「全く善いところのない子だ」とか、「不道徳で墮落した子だ」と言って、絶え間なく説教する場ではない。こうした説教は子どもをならず者に仕上げる最善の方法ではあって、宗教心の発達を願う方法ではない。真の幼稚園教師は子どもを厳しく説き伏せ奴隷にするのではない。愛をもって、子どもたちの敏感で正しく感じる心情や精神のかすかな予感から来る喜びを与えるのである。子どもに自制する方法を学ばせたいなら、先の事例のように、子どもが自己統制に夢中になる機会とそれに伴う喜びが与えられるよう、時間をかけて辛抱強く待つのである。

無償幼稚園が貧児や地域に及ぼした影響は、シカゴ博を通して認識され、より多くの子どもたちに開放するために公教育体系に編入されていく。そして、子どもの問題に関する深い洞察は、乳幼児教育に対する女性の役割を認識させ、母親会議がシカゴにおいて開催されるなど、親や教育関係者に子どもを取り巻く教育問題、社会問題への関心を高めさせた。

しかし、無償幼稚園の公教育体系への編入は家庭的な生活の場である幼稚園を変質させ、無償幼稚園と家庭との接触を疎遠にしていく問題を生み出す原因ともなった。無償幼稚園と家庭の接触は「生の合一」を意識化させた教師によって、注目すべき人間的効果もたらされたのである<sup>55)</sup>。家庭訪問や園児の内省的影響力が不潔で、聞くに堪えない会話や悪臭にまみれた住民達を変えていく。子どもたちは幼稚園に着ていく清潔な服を主張し、汚れたら洗濯を求めるようになる。ガラスの代わりだった新聞紙は取り除かれ、教師がいつ来てもいいように、椅子が掃除され、部屋もきれいにされた。夕方、子どもの歌が楽しみとなり、父親は酒屋に行かなくなると、ビール代が子どもの預金に回せるようになった。家の前で大声を出して走り回っていた他の子どもたちも、やがて幼稚園の効果を認識した親たちによって幼稚園に連れてこられる。清潔・儉約・信頼の教えが体験を通して学習され、子どもたちの主張や幼稚園教師の親しみのある家庭講話を通して家庭にも伝えられた。こうした幼稚園と家庭との接触が貧児の社会適応と社会救済の制度化によって薄れていくのである。

## おわりに

コロンブス新大陸発見400年を記念して開催されたシカゴ博は、会場とシカゴの中心街との間を高架式鉄道で結び、入場口には自動改札機が導入されるなど、最新技術を駆使した展覧会であった。会期中に女性会議を始め、国際宗教会議、国際女性代表者会議などが開催され、入場者は2億人を越えた。シカゴ市を世界一級の都市へと

押し上げた博覧会で注目されたのが、女性館である。従属物でしかなかった万国博覧会の女性館とは異なり、男性同様、女性が加わっている証拠と見なされた。シカゴ博は子どもと女性たちの新しい時代の幕開けを象徴する転換期となった。

ホールは1900年の『フォーラム』誌において、シュラーダーがペスタロッチ・フレーベル・ハウスで進めてきた改革を支える新しい学派こそがフレーベルの正系だと強調するほど、その方法や成果を高く評価していた<sup>56)</sup>。ホールはこの新しい学派が、幼稚園教師の団体からわずかにしか認識されておらず、一般的には疑いの目が向けられ、その方法や成果はアメリカの幼稚園教員養成校に殆ど知られていないと述べているが、そうではないことは本研究から明らかである。

本研究はペスタロッチ・フレーベル・ハウス受容に至る理論的かつ実践的流れを辿ることによって、フレーベル主義者と進歩主義者の対立から描かれるアメリカの幼稚園運動研究に次の2点を補足した。第1に、カリフォルニアの無償幼稚園運動家による恩物作業教育・遊戯教育改革の視点から、ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの実践との類似性が明らかとなった。第2に、ピーボディ、ウィギンらとペスタロッチ・フレーベル・ハウスとの接点を探りながら、無償幼稚園運動家が強調したフレーベルの『母の歌と愛撫の歌』(*Mutter und Koselieder*)による女性の崇高な事業と職務である幼稚園教師の実態を明らかにしたことにある。

## 注

- 1) “The Exhibit of the Pestalozzi-Froebel Haus of Berlin,” *Kindergarten Magazine*, 6, 1894, pp. 9–13.
- 2) ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの影響については拙著「19世紀末期のシカゴにおける幼稚園改革の系譜—ペスタロッチ・フレーベル・ハウスの影響を中心として—」『鳴門教育大学研究紀要（教育科学編）』第13巻, 1998年, 89–97頁を参照。
- 3) “Kindergarten-Bestrebungen in Amerika,” *Vereins-Zeitung des Pestalozzi-Fröbel-Hauses*, 24, 1893, SS.5–7.
- 4) Allen, A. T., “American and German Women in the Kindergarten Movement, 1850–1914” in Geitz, H., Heideking, J. & Herbst, J. (eds.), *German Influences on Education in the United States to 1917*, Cambridge University Press, 1995, p.95.
- 5) no. 1 above, pp. 9–10.
- 6) Hamminck-Schepel, A., “Mitteilungen aus Chicago an Frau Henriette Schrader,” *Vereins-Zeitung des Pestalozzi-Fröbel Hauses*, 26, 1893, SS.1–8.
- 7) Bryan, A. E., “The Letter Killeth,” National Education Association, *Addresses and Proceedings*, (以下, *N.E.A. Proceedings*), 1890, pp.573–581.
- 8) 阿部真美子・別府愛他『アメリカの幼稚園運動』明治図書, 1988年, 3頁。
- 9) Shapiro, M. S., *Child’s Garden: The Kindergarten Movement from Froebel to Dewey*, The Pennsylvania State University Press, 1983, pp.30–31. Beatty, B. *Preschool Education in America: The Culture of Young from the Colonial Era to the Present*, Yale University Press, 1995, p.53. 開設年が1855年と1856に分かれるが、ここでは1856年とした。
- 10) Snyder, A., *Dauntless Women in Childhood Education 1856–1931*, Association for Childhood Education International, 1972, p.31.
- 11) Shapiro, op.cit., pp.73–74.
- 12) Vandewalker, N. C., *The Kindergarten in American Education*, Macmillan Co., 1908, p.18. Shapiro, op.cit., p.73–78.
- 13) Shapiro, *ibid.*, p.79–80.
- 14) Harris, W. H., “Kindergarten in the Public School System,” *American Journal of Education*, 31, 1881, pp.625–626.
- 15) Harris, W. H., *Psychologic Foundations of Education: An Attempt to Show the Genesis of the Higher Faculties of the Mind*, D. Appleton and Company, 1898, p.317, Reprinted by Arno Press, 1969.
- 16) *ibid.*, p.319.
- 17) Harris, (no.14 above), p.634.

- 18) Harris, W. H., "Report from a Department of Sub-Committee on Kindergarten," *Journal of Social Science*, XII, 1880, p. 9.
- 19) Harris, W., "Report of the Superintendent," Twenty-first Annual Report of the Board of Directors of the Year Ending August 1875, 1876, pp.95-100, Reprinted in R. H. Bremner (ed.), *Children and Youth in American: A Documentary History*, Vol.II, 1866-1932, Harvard University Press, 1971, p.1454.
- 20) Sharipo, op.cit., p.79.
- 21) ibid., p.88. "Charity Kindergarten in the United States," *American Journal of Education*, 31, 1881, p.651.
- 22) Blow, S. E., *Symbolic Education: A Commentary on Froebel's "Mother Play"*, D. Appleton & Co., 1894, pp.103-104.
- 23) Troen, S. K., *The Public and the Schools: Shaping the St. Louis System, 1838-1920*, University of Missouri Press, 1975, pp.104-105.
- 24) Froebel, F., *Mother-Play and Nursery Songs*, trans., Dwight, F. E. & Jarvis, J., Lothrop, Lee & Shepard Co., 1878, pp.78-79.
- 25) Harrison, E., *Sketches Along Life's Road*, Stanford Co., 1930, p.71.
- 26) Peabody, E. P., *Lectures in the Training Schools for Kindergartens*, D. C. Heath & Co., pp.160-161.
- 27) Aldrich, A., "Notes of Visits to Kindergartens," *American Journal of Education*, 30 (3), 1880, pp.881-888. この報告書は目次では「シュラーダー夫人の幼稚園観察記録」となっており、原文の題とは若干異なる。本論では目次の表題を使っている。また、この報告書は『アメリカ教育雑誌』第31巻に、シュラーダーの手紙とともに、再掲された。
- 28) "A German Kindergarten," *American Journal of Education*, 30 (3), 1880, pp.889-890. 再録されたものでは31, 1881, pp.459-460. となっている。これは Lyschinska, M. J., *The Kindergarten Principle: Its Educational Value and Chief Applications*, Wm. Isbister, 1880の一部を補足している。引用箇所はこのリチンスカの第1章の一部である。
- 29) "Madame Henrietta Breyman Schrader," *American Journal of Education*, 31, 1881, p.457. シュラーダーが1880年10月15日付けでアメリカ教育雑誌の編集者に宛てた手紙である。引用部分は彼女が手紙に添付した指導生のペスタロッチ・フレーベル・ハウスの解説である。
- 30) Allen, op.cit., p.96.
- 31) Wiggin, K. D. & Smith, N. A., *Kindergarten Principles and Practice*, Houghton, Mifflin & CO., 1896, pp.104-105. Wiggin, K. D., *Children's Right: A Book of Nursery Logic*, Houghton, Mifflin & Co., 1892, pp.64-67.
- 32) Wiggin, K. D. & Smith, N. A., *Froebel's Occupations*, Houghton, Mifflin & Co., 1896, p.292.
- 33) Rainwater, C.E., *The Play Movement in the United States: A Study of Community Recreation*, The University of Chicago Press, 1922, pp.22-23. 砂場の歴史と子ども観に関する研究は、笠間浩幸『<砂場>と子ども』東洋館、2001年が詳しい。
- 34) Dickason, J. G., *The Development of the Playground Movement in the United States: A Historical Study*, University Microfilms International, 1979, pp.31-35. Boyer, P., *Urban Masses and Moral Order in America, 1820-1920*, Harvard University Press, 1978, pp.233-251.
- 35) Hailman, W. N., "The Adaptation Froebel's System of Education to American Institutions," *N. E. A. Proceedings*, 1873, pp.141-147.
- 36) Lascarides, Y. C. & Hinitz, B.F., *History of Early Childhood Education*, Falmer Press, 2000, p.255. 菅野文彦「進歩主義幼児教育論の胎動」阿部・別府他、前掲書、37頁。
- 37) Wiggin & Smith, *Kindergarten Principles and Practice*, p.1. ウィギンはピーボディの言葉を引用しながら、幼稚園教師の技術と伝道の役割を説いている。
- 38) Vandewalker, op.cit., p.59.
- 39) Ronda, B. A., *Elizabeth Palmer Peabody: A Reformer on Her Own Terms*, Harvard University Press, 1999, p.311. Lascarides & Hinitz, op.cit., p.242.
- 40) Vandewalker, op.cit., p.56.

- 41) Fisher, L., "The Kindergarten," in United States Bureau of Education, *Report of the Commissioner of Education for the Year Ending June, 1903*, Vol. 1, Government Printing Office, 1905, p.694.
- 42) Vandewalker, op.cit., p.67. Marwedel, E., "Kindergarten Work in California," *American Journal of Education*, 30 (3), 1880, p.899.
- 43) Cooper, S.B., "Practical Results fo Ten Years' Work," *National Confonrence of Charities and Correc-tions, Proceedings*, 16, 1889, p.188.
- 44) Smith, N. A., *The Kindergarten in a Nutshell: A Handbook for the Home*, Curtis Publishing Co., 1899, pp.13.
- 45) *ibid.*, pp. 2 - 3.
- 46) Wiggin & Smith, *Kindergarten Principles and Practice*, p.51. 女性の心情の内に眠る予感能力の重要性はウイギンの実践や、マーウェデルによる養成校での指導から明らかとなる。ウイギンの実践は拙著「無償幼稚園における子どもの生活形態と母親教育－ケート・D・ウイギンの実践を通して－」『鳴門教育大学研究紀要』第22巻, 2007年, 86-95頁を参照。また、マーウェデルの教員養成の実際は、拙著「幼稚園教員の専門性としての共感－エマ・マーウェデルの保育と幼稚園教員養成の実際をてがかりに－」『鳴門教育大学研究紀要』第24巻, 2009年, 1-12頁を参照。
- 47) Marwedel, op.cit., p.899.
- 48) Wiggin & Smith, *Kindergarten Principles and Practice*, p.51.
- 49) Vandewalker, op.cit., pp.133-136.
- 50) *ibid.*, pp.134-135.
- 51) *ibid.*, pp.135-136.
- 52) Cooper, S. B., "The Kindergarten as a Character Builder," in Oldham, E. M.(ed.), *The Congress of Women: Held in the Woman's Building, World's Columbian Expositon, Chicago, U. S. A., 1893*, Mon-arch Book Co., 1894, p.296.
- 53) *ibid.*, p.298.
- 54) *ibid.*, pp.297-298.
- 55) Vandewalker, op.cit., pp.61-62.
- 56) Hall, G. S., "Some Defects of the Kindergarten in America," *The Forum*, 28, 1900, p.584.

# The Kindergarten Movement in the United States and the Pestalozzi–Fröbel Haus

HASHIKAWA Kimiyo

(keyword : Free Kindergarten, World's Columbian Exposition, International Kindergarten Union, Pestalozzi–Fröbel–Haus)

The purpose of this paper is to research the roots of acceptance of the Pestalozzi–Fröbel–Haus in the World's Columbian Exposition in Chicago, analyzing the free kindergarten movement in California.

Elizabeth Peabody, a Boston intellectual and educator, set up her own kindergarten in Boston. In 1867 she traveled to Germany to study with the then most prominent female kindergarten founder in Germany, the Baroness von Marenholz–Bülow. Peabody persuaded some German kindergartners, including Emma Marwedel, to come to America. Peabody was interested in the controversy between Marenholz–Bülow and Schrader–Breyman who was founded Pestalozzi–Fröbel–Haus. She sent two best-trained kindergartners to Berlin in order to make sure of the truth of the controversy. In 1880 the visitor to Berlin published a very favorable report in *American Journal of Education*. To this report publishers added a few extracts from a very attractive and instructive volume by Mary Lyschinska, entitled *The Kindergarten Principle : Its Educational Value and Chief Applications*.

Emma Marwedel, who emigrated to America in 1870, moved from Washington, D.C., to California, where she established the state's first free kindergarten and kindergarten training school. In 1878 Silver Street Kindergarten was sponsored by Felix Adler, who had founded an organization, the Ethical Culture Society. The head teacher at Silver Street Kindergarten was Marwedel's student Kate Douglas Wiggin. In 1883, Wiggin told Peabody that Lyschinska's article had so closely resembled one that she had just written that she feared the suspicion of plagiarism. Wiggin interested teaching methods by Schrader–Breyman like Peabody.

In 1892 the International Kindergarten Union was organized by the American kindergartners. Sarah Cooper was elected the first President. Cooper was a woman of rare power and influence, who had been identified with every phase of philanthropic work, but whose great mission was revealed to her by a single morning's visit to the Silver Street kindergarten. In 1879 Cooper founded the Jackson Street Kindergarten Association, later to be renamed the Golden Gate Kindergarten Association. The International Kindergarten Union requested to sponsor the exhibit at the World's Columbian Exposition in Chicago of 1893. Annette Hammink–Schepel, former student of Schrader–Breyman, who supervised the exhibit at the World's Fair. The visibility and prestige of the Pestalozzi–Fröbel–Haus were increased by the exhibit.

By historically tracing the roots of acceptance of the Pestalozzi–Fröbel–Haus in the World's Columbian Exposition in Chicago, we would have a better understanding of the free kindergarten movement in California.